

平成21年度 第18回 経営審議会議事要録

日 時 平成22年3月16日(火) 14:00～16:50

場 所 北方キャンパス本館 E701 会議室

出席者 <委員>阿南理事長、矢田副理事長(学長)、重渕理事、宮崎理事
近藤理事(副学長)、松藤理事(副学長)、尾上理事(事務局長)、
石丸委員、岡田委員、高橋委員、中津井委員
(奥村監事)

配布資料

- 1-1 平成22年度計画(案)の概要
- 1-2 平成22年度計画(案)
- 2 平成22年度予算(案)
- 3-1 認証評価結果(案)について
- 3-2 平成21年度実施 大学機関別認証評価 評価結果(案)
- 3-3 平成21年度実施 選択的評価事項に係る評価 評価結果(案)
- 4-1 ビジネススクール認証評価に係る実施機関及び実施状況について
- 4-2 経営系専門職大学院認証評価 点検・評価報告書
- 5 第2期中期目標・計画の中間報告について
- 6 国際環境工学部の取り組みについて
- 7 地域共生教育センターの設置について
- 8 平成22年度入試状況について
- 9 スカラーシップ入試について
- 10 就職状況について
- 11 卒業延期特例措置について
- 12 平成22年度大学運営体制について

議事要旨

第1号 平成22年度計画案について

・平成22年度計画案について説明

- TOEICやTOEFLの目標値に対する到達学生の目標割合が前年度に比べ下がっている。
これは、数値目標が達成できなかったということか。
- 数値が若干下がっているのは、当初は、タコマへの派遣により、学生のTOEFL能力が伸びると考え、目標を定めたが、結果として伸びていない。現時点で設定できる数値に修正したが、学生の受験の指導体制を強化し、少しずつ目標を高めていきたいと考えている。
- TOEICは、全学生対象で底上げはされている。TOEFLは、英米学科の学生の目標としており、相当高い目標を定めたが、必須としていないため受験していない。入学時のハー

ドルは非常に高く、能力が無いわけではない。

- 語学教育は本学の特色ある分野なので、力を入れて取り組んでいただきたい。基準となる目標値を下げなくてもよいのではないかと。
- 大学院への進学に際して優秀な学生には3年次からの進学を勧めてはどうか。本学の特色ともなっていくと思うので、是非検討願いたい。

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第2号 平成22年度予算案について

・平成22年度予算案について説明

- 目的積立金の取崩額は、今年度の決算における剰余金を来年度に補正予算を組むことで平成22年度の最終額と考えてよいか。
- 目的積立金の取崩しは、来年の補正分を含めて考えていただいてよい。
- 収支予算からは、大学は自己収入や外部資金収入といった自助努力で財源構成がしっかりしていることが見て取れるが、そのように認識してよいか。
- 公立大学は、大学によって全く違う。医科大学は運営費交付金依存型で、文系大学は、授業料依存型が多い。国立大学と比べて、ばらつきがあり、自助努力なのか、構造的なのかは難しい問題である。

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告事項

- ・事務局より、以下の項目について報告された。
- 1 認証評価について
 - ① 認証評価結果（案）について
 - ② ビジネススクール認証評価に係る実施機関及び実施状況について
- 2 第2期中期目標・計画の中間報告
- 3 国際環境工学部の取り組み
- 4 地域共生教育センターの設置について
- 5 平成22年度入試について
- 6 スカラシップ入試について
- 7 就職状況について
- 8 卒業延期特例措置について
- 9 その他
 - ① 平成22年度大学運営体制について

【認証評価結果案について】

- 改善を要する点で、大学院課程の多くの研究科において、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低いとあるが、例えばどういう課程が高く又は低いのか。
- 1.0 が基準で5年間の平均の数値を資料に示しているが、博士後期課程の国際環境工学研究科は0.41で低く、同じく社会システム研究科は1.55と高い数字となっている。
- 大学の目的で学長や理事長が担当する「大学論・学問論」で講義をしているが、どのようなポイントで話をされているのか。
- 企業の世界から見て、国際化が進む中で、大学生活をいかに有意義に送ったらいいかを実例を交えながら話している。
- 社会の役割は何なのかから始めて、戦後の日本の大学政策や高等教育政策の流れ、北九大の改革の流れを話している。
- 教養教育のなかで、組織の長が何を語るかというのは非常に素晴らしいことである。
- 大学教育の結果としての学生の向上をどのように評価するかは、長期的なことで非常に難しいが、何らかの形で確認することができる仕組みが出来れば良いと考える。
- 認証評価にパスされたことに祝意を評したい。優れた点が19も指摘されており、また目標にしていた「選択的評価事項」が最上位のS（非常に優れている）となったことは、大学経営陣、事務局そして評価室などのチームワークの賜物と理解している。

【第2期中期目標・計画の中間報告について】

- 8つの主要な観点は目標という意味なのか。
- 用語の使い方が難しく、例えば学位授与評価機構では、目標といえば、本学の理念という意味で使われているが、中期計画の観点というのは、目標ではなく、主要な項目ぐらいで理解していただきたい。中期目標の4つの領域に対応させる形で観点という言葉を使っている。
- 評価機構が使っている「観点」との言葉は、評価の視点という趣旨が強い。本学では「観点」ではなく、わかりやすく目標、課題として打ち出すのがよいと思う。
- 中期目標を策定する市の部署はどこか。
- 大学を所管する部署として、市では産業経済局の学術振興課が窓口となり策定している。第2期中期目標策定会議のなかには、産業経済局、総務市民局、環境局等の部署が入って、会議を行っているが、取りまとめは学術振興課が行っている。
- EUでは、ボローニャ計画としてEUを中心として高等教育を振興することを考えている。例えば、ドイツ、アイルランドほかの数カ国の大学である学問分野で共通の単位認定をする仕組みを進めている。アジアでもAPECで同じような構想が進んでいる。
本学は理念としても東アジアの拠点との理念があるので、率先して、アジア諸国の大学との単位の共通化、授業の共通化を担われたら良いのではないかと。本学としてのブランド化や他との差別化が図れるのではないかと。

【地域共生教育センターの設置について】

- 先月、地域創生学群が主催した第1回地域創生フォーラムで、学生のプレゼンテーション能力が低いと感じた。デジタルで見せる資料作りは上手いが、やってきたことを自分の言葉で発表することが下手であった。てこ入れが必要ではないか。また北九大が元々、語学で始ま

った大学であるならば、英語力はもちろんだが、語学的なセンスが表に出てもいいものでないか。

- 地域創生学群では、大学に入りたての学生を、教員がかなりてこ入れして実習等に出してきた。フォーラムでは、一年生がプレゼンを行ったが、教員がかなり指導したうえで、学生なりに個性を出したものであった。ただし、学生を社会に出してトラブルもあったため、地域共生教育センターを作るにあたっては、ある程度は最初に手をかけていく必要があると考えている。地域創生学群の学生には、今は形を覚える段階ではあるが、この形を壊してもらいたいと言っている。美しさだけでなく、内容が重要であることを今後も指導していきたい。